

著作権の事情により、  
作品写真は掲載できません  
(美術館でご覧ください)

「ヴィーナスの夢」 サルバドール・ダリ

著作権の事情により、作品  
写真は掲載できません  
(美術館でご覧ください)

「人間嫌いたち」 ルネ・マグリット

### 題材の目標

美術作品のよさや表現の意図などに関心を持ち、感じたことや思ったことを話し合いながら見る。

鑑賞したことを生かし想像を広げ、不思議な世界を絵に表す。

### 準備物

【教師】鑑賞作品の複写，画用紙，雑誌・新聞の切り抜きなど

【児童】筆記用具，色鉛筆，ペン，はさみ，のり，雑誌・新聞の切り抜きなど

### 学習の展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 事 項	評 価 規 準
<p>画用紙に地平線（水平線）を描き，思い付いたものを自由に描く。</p> <p>「人間嫌いたち」を見て，おもしろいところや不思議なところなど感じたことを話し合う。</p> <p>「ヴィーナスの夢」を見て，おもしろいところや不思議なところなど感じたことを話し合う。</p> <p>一つの画面に色々なものを貼ったり描いたりして不思議な世界を作る。</p> <p>まとめ</p>	<p>短い時間でスケッチできる小さな紙を渡し，好きな位置に地平線（水平線）を描かせ，心に浮かんだものを描かせる。</p> <p>普通ではない組み合わせ（屋外とカーテン）や考え込まれるような題名などに注目させ，作品の面白さを味わわせる。</p> <p>硬いものが柔らかく変化していたり，無関係なものが同じ画面に存在したりする意外性や非現実性などの面白さを味わわせる。</p> <p>マグリットやダリの表現を参考にして，夢で見たような世界や現実にはない世界を想像させる。</p> <p>コラージュなど表現方法を取り入れ，自分らしい表し方で表現する。</p>	<p>話したり，聞いたりして，自分の感じ方や見方を深める。</p> <p>自分らしい感覚を働かせ，表現方法を工夫して表す。</p>

## 題材の意図と指導のポイント

### < 児童の発達段階との関連 >

この時期の児童は、一人一人好みや行動もちがい、個性的な面が育ってきます。美術作品の中でも個性的な作品や空想的な作品に興味をもちます。ダリやマグリットの作品は児童にとって刺激的でインパクトが強いので鑑賞や表現の意欲を高めるものとなるでしょう。

### < 鑑賞の視点 >

画面に描かれているものやその組み合わせの意外性など、現実にはない世界を画面の中に作っている作者の意図など個性的で自由な表現を味わいましょう。

### < 指導の工夫及び配慮 >

新聞や雑誌の切り抜きを貼る時には、ていねいに切り取らせ（輪郭の内側を切ると美しい）、貼る位置を決めて、最後にのりを付けて貼りましょう。

作品の大きさによってかかる時間がかかります。児童に紙の大きさや色を選ばせたり、形を工夫させたりして、無理のない計画を立てましょう。

### < 教具（教材）づくり >

貼る材料は、雑誌や新聞・広告の切り抜きの他に、ポスター、カレンダーなどに美しい写真がたくさんあります。紙類の他に、布類、毛糸、ボタン、綿、アルミ、落葉など身の回りにあるものを活用すると楽しいでしょう。

## サルバドール・ダリ 「ヴィーナスの夢」<sup>ゆめ</sup>《油彩 1939年 243.8×487.6cm》

サルバドール・ダリ（1904～1989年）は、独創的な発想と卓越した描写力によって独自の世界を表現し、シュルレアリスム（超現実主義）の代表的な画家の一人として有名です。スペインのカタルーニャ地方のフィゲラスに生まれ、マドリードの美術学校に学び、フロイトの影響を受け、彼独自の偏執狂的・批判的方法を唱え、シュルレアリスム運動に参加しました。その後、シュルレアリスム運動を除名されますが、1939年、ニューヨーク万国博覧会でパビリオン「ヴィーナスの夢」をデザインしました。

この「ヴィーナスの夢」の画面には、荒涼とした風景の中に、いくつかの柔らかい時計、人の顔のようなもの、燃えるキリン、白いドレスの小さな女（海の妖精セイレーン）、骨のような難破船、人の顔にも見える山、体から引き出しが飛び出し頭に伊勢海老をのせた男などが描かれ不思議な世界を作っています。

## ルネ・マグリット <sup>にんげんぎら</sup> 「人間嫌いだち」 《油彩 1942年 54.0×73.0cm》

ルネ・マグリット（1898～1967年）はベルギーに生まれ、ブリュッセルにある王立美術アカデミーに学び、後期印象派やキュビズム、未来派などの影響を受けますが、1922年デ・キリコの「<sup>けいじじょう</sup>形而上絵画」に接しシュルレアリスムの傾向を強めます。マグリットは、普通にはあり得ないものを組み合わせ不思議な感じを作り出す手法（デペイズマン）と写実技法によって制作しました。また、言葉（題名）と事物（モチーフ）とイメージの関係に興味をもち、機知あふれる作品によって多くの人々に親しまれました。マグリットにとっては、題名は作品を説明するものではなく人々を驚かせ、魅惑するものでした。